

HAIBARA Art & Design:

Washi paper and Japanese aesthetic



和紙がおりなす日本の美

千代紙<重陽>河鍋曉齋 木版多色摺

2023.12.16 (土) ▶ 2024.2.25 (日) *会期中、展示替えあり

休館日●月曜日(1月8日、2月12日は開館)、1月9日(火)、2月13日(火)、年末年始(12月29日~1月4日)

開館時間●午前10時~午後8時(*入館は7時30分まで)

三鷹市美術ギャラリー JR三鷹駅前(南口)CORAL 5階

観覧料●一般600円 / 65歳以上・学生(高・大)300円

*中学生以下及び障害者手帳等をお持ちの方は無料 *20人以上の団体(一般)は2割引

主催:三鷹市美術ギャラリー・(公財)三鷹市スポーツと文化財団 協力:株式会社 榎原-はいばら-

問い合わせ:三鷹市美術ギャラリー 東京都三鷹市下連雀三丁目35番1号 電話0422-79-0033 <https://mitaka-sportsandculture.or.jp/gallery/>



HAIKARA

HAIBARA Art & Design



日本橋に店舗を構える「榛原-はいばら-」は、1806(文化3)年に創業し熱海製雁皮紙をはじめとする高級和紙や、小間紙と呼ばれる装飾用の加工紙(千代紙、書簡箋、熨斗ほか)などを販売してきました。18世紀の終わり頃から製造が開始された熱海製の雁皮紙は、墨の付きが良く緻密で上品な光沢があり、従来の楮製の紙に代わる高級紙として江戸の数寄者たちに広く愛用されるようになります。雁皮紙を加工した和紙製品には、美しい彩色や同時代の画家による装飾が施され、榛原は上質かつ洗練された高級和紙舗としての評判を得ます。

明治時代になると、高度な木版摺りの技術とデザイン性を兼ね備えた榛原の商品は、日本を代表する工芸品として海外から高く評価され、国内外の博覧会で受賞を重ねました。

今回の展覧会では、おもに明治から昭和初期にかけて榛原で製作された貴重な品々をご紹介します。河鍋暁斎(1831-1889)や川端玉章(1842-1913)が手がけた華麗な千代紙や、同時代の画家たちによる団扇絵、美しい絵柄の絵封筒や絵半切(便箋)は、当時の人々に身近で上質な(美)との触れあいをもたらしました。

また、榛原の当主たちは商品の研究も兼ねて、同時代の芸術家たちと交流を結んできました。特に明治期前半に活躍した三代目当主榛原直次郎は美術への関心が高く、伝統的な日本美術の復興を目的として結成された龍池会に入会し、日本青年絵画協会(のちの日本美術院)の設立を援助するなど、美術界と深いつながりをもっていました。こうした榛原と美術家たちとの関わりについても注目し、柴田是真(1807-1891)や河鍋暁斎、竹久夢二(1884-1934)が手がけた仕事の数々をご紹介します。

日本の紙文化と伝統木版画の流れを受け継ぐ小間紙の魅力と、豊かなデザインの数々をお楽しみください。



7

会期 *会期中、一部展示替あり

前期 2023年12月16日[土]—2024年1月21日[日]

後期 2024年1月23日[火]—2月25日[日]

次回企画展予告

三鷹市美術ギャラリー収蔵作品展V

【前期】2024年6月1日[土]~7月7日[日](予定)

【後期】2024年7月13日[土]~8月18日[日](予定)

和紙がおりなす日本の美 Washi paper and Japanese aesthetic



2



3



4

5

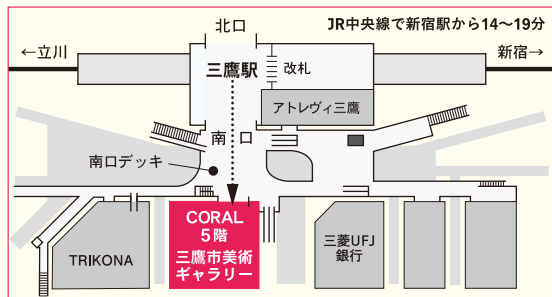
6



8

- 1 団扇(雨の奥多摩)川瀬巴水 木版多色摺
- 2 千代紙(牡丹)河鍋暁斎 木版多色摺
- 3 絵短冊(十二ヶ月絵短冊)(部分) 長野草風 木版多色摺
- 4 ぼち袋(高砂) 木版多色摺
- 5 ぼち袋(宝船)竹久夢二 木版多色摺
- 6 ぼち袋(千両箱) 木版多色摺
- 7 団扇絵(蒲公英)竹久夢二 木版多色摺
- 8 洋風絵封筒 木版多色摺

※所蔵はすべて株式会社榛原



三鷹市美術ギャラリー

〒181-0013東京都三鷹市下連雀三丁目35番1号
JR三鷹駅(南口)前 CORAL5階 TEL. 0422-79-0033
<https://mitaka-sportsandculture.or.jp/gallery/>

三鷹駅南口デッキを
通過しCORAL2階入り
口から、お入りください。
CORAL内エレベーター
で5階へお越しください。